

2002年2月例会レジュメ

2 - 1 中田 昭 (機械) FA システム (製造ライン) のマトリックス法による安全性評価について

FA システムの安全性評価は、複数の機械・設備の組み合わせによる統合化システムや、自動化システムには作業要員の能力、挙動と複雑な関係が存在すること、ならびに事故が周辺地域の安全の及ぼす影響等の観点から、多用な側面より包括的に行うことが重要かつ効果的である。そこで主題の評価法は製作者、運転要員と保守要員および第三者などに分けた「対象範囲の側面」と、安全の基本対策、危険の無害化対策、異常の局所化対策等に区分した「安全対策の側面」の2次元マトリックス法を採用し、その交点にある評価項目を6段階安全ランクで評価する手法であることが解説された。そして、その手法に基づき当時の通産省工業技術院の委託により、1989年から5年計画で国際ロボット・FA技術センター(IROFA)において氏が実施した「FAの信頼性・安全性の標準化に関する調査研究」の一部が具体例を交えた多くの資料とともに紹介された。質疑時間が本会の運営進行上割愛されたのが誠に惜まれるようであった。

2 - 2 大島 正 技術者のサバイバルとリスクマネジメント

昨年の米国テロ発生、頻発する企業の不祥事、深刻なIT不況の中で、すべての企業・個人はリスクに備えることが必要な時代になっている。企業にとって、経営にインパクトがある危機のダメージを最小にして、すばやく平常時の状態に復活すること(危機管理)は、広義のリスクマネジメントに含まれる。このマネジメントでもっとも大事なことは、平常時から万一の危機が発生した場合に備えること。次にできるだけリスクを芽のうちに摘み取ることを、組織的に継続して行っていくことであると説明し、昨年秋に危機管理室を発足させた横河電機の取り組みが紹介された。製造業にとって最大のリスクは、製品・サービスの品質に関するリスクと位置付け、その他のリスクと共にこのマネジメントの基本的な考え方が説明された。最後に高齢社会を迎えているわが国で、シニアの技術者がサバイバルし、自立して生き生きと能力を発揮して活躍するために、リスクマネジメントの考え方にに基づき一般的に共通するリスクの要因をあげて分析し、発表された氏の提案に一同感銘した。

(田所 孝 記)